さらに学びかったテーマ，模擬授業，英語で取り組む活動・課題について

英語教育講座・池野修

１．授業の概要

「英語科教育法 4」は，中学校英語一種免許取得にあたっての必修科目であり，教育実習を終えた３年次後学期（以降）に受講する科目である。授業では，英語リーディングの指導，英語科教育における異文化理解，英語学習意欲，英語教育評価，多様な言語活動，英語教師としての成長などのテーマを扱い,講義及び話し合い活動に加えて，言語活動体験，教科書単元分析，オリジナル英語教材の作成と発表，受講生によるリサーチの発表などの活動を行っている。

２．授業の評価

2.1. 授業評価方法

今年度は，学期末に実施した授業アンケートにおいて，以下の 3 つの質問についての回答を求めた。いずれも，授業担当者が従来から本授業の課題と考えている事柄である。

(1) この授業でもっと学びたかったテーマは何か。
(2) 模擬授業を行った方が良いと思うか。
(3) もっと英語で行う活動や課題を増やすべきか。

受講生 26 名の内 19 名から回答を得た。

2.2. 他に（もっと）学びたかったテーマについて

複数（3 名）の受講生が言及していたのは「ICT の活用」である。このテーマは今年度ほとんど扱っていないが，これからの英語教育には必要不可欠であるので，来年度は，関連の授業例の紹介や ICT 機器・機能を使った演習などを加えることを考えている。

他にも気になった回答として，「(テストについて学ぶだけではなく）テストを作成する演習」「障害児教育の視点からの英語教育」「学校現場の先生に話を聞く機会」がある。いずれも重要なテーマなので，扱うことを検討してみたい。ただし，授業時間が限られているので，現在の授業内容の何を削減するかも考えなければならない。

2.2. 模擬授業について

「英語科教育法 4」において模擬授業を行うべきかどうかも，担当者として迷いのある，判断が難しい課題である。なお，模擬授業は「英語科教育法 2」「英語科教育法 3」でも実施しており，この授業を受講するにあたって，教育学部生はすでに附属での教育実習を終えている。これらの点を踏まえ,「教育法 4」では模擬授業は実施していない。

この質問に対する受講生の回答は,「模擬授業を実施した方がよい」10 名,「する必要はない」9 名と二分されている。この結果を見ての授業担当者の正直な感想は,「教育法 4」において模擬授業の実施を希望する学生がこれほどいるのか，というものである。

模擬授業実施に賛成の意見としては,「実践力を身につけたいので」,「実習で得た反省や失敗を次に生かせるような場面が当分ないため」,「実習を終えたからこそできる模擬授業もあると思う」といったものがあり，もっともな理由だと言える。

一方で,「必要ない」という立場からは,「専門的知識を知り得る機会が少なく，模擬授業より重要である」,「教育法 2，3 で十分に模擬授業を行っているため，4 では実技より教育方法の知識を学ぶ方が良い」などの回答があった。

なお，模擬授業実施に賛成の意見の中には，50 分の模擬授業ではなく授業の一部だけを行う形にする，希望者のみ模擬授業を行う，といった回答もあった。

現時点では，授業担当者としては,「教育法 4」での模擬授業の実施には慎重な立場である。模擬授業を本格的に実施すると，英語教師に必要とされる専門的知識の一部を削除せざるを得ない。「教育法 4」においてまで，専門的知識の習得より実践的体験を優先してよいのかという思いもある。ただし，上に紹介した受講生の意見もよく理解できるので，来年度は「新出文法の口頭導入」「教科書本文の理解チェック」「言語活動のデモンストーレーション」といった授業活動を対象として，模擬授業を実施することを計画してみたいと考えている。

2.3. 授業における英語使用について

本授業では，主に日本語を用いて講義や活動を行なっている。テーマ単元によっては，学生同士のディスカッションを英語で行ったり，英語を用いた言語活動を体験したりしている。

内容学習（特に知識の獲得）の点では日本語の

方が効率が良いのは間違いないが，中学校・高等学校では「英語で授業」が求められていることを考えると，英語教員養成の授業もできるだけ英語で行うことが望ましいのも確かであろう。

授業アンケートでは,「授業で英語で行う活動や課題をもっと増やした方が良いか」という質問をした。具体的には，授業中の話し合いを英語で行ったり，最終レポート（現在は日本語／英語のどちらで書いても良いとしている）を英語で書くようにするようにすべきか，という質問である。結果は，賛成 12 名，反対 7 名であった。

賛成の意見としては，以下のような回答が見られた。

・学生の間に英語での授業をより当たり前とすることで，教師になった際に英語使用の多い授業を意識しやすくなると感じた。
・英語教員の免許の取得をするために学んできた最後の授業であるので，教員になる前に一度は英語でレポートを作成すべきだと思う。
・英語資料を読む機会を増やすのは賛成です。

反対の意見には以下のような回答が含まれていた，

・方法論・理論の学習は日本語の説明で理解も深まるのでは良いと思います。
・日本語できっちり理解できる方が,「教えるべきこと・知っているべきこと」は身につきやすいと感じています。

アンケート結果は，英語での活動や課題を増やすことに賛成する受講生の方が多かったが，授業担当者の実感としては，明確な根拠があるわけではないが，講義を英語で行い，受講生による話し合い活動を英語を用いて行うと，3 分の 1 以上の学生は授業に十分ついてこれなくなるのではないかと思う。

授業での使用言語（日本語／英語）のバランスについて，ある受講生の回答が示唆を与えてくれる。

・動機づけの単元において事前に［英文の］資料を読んで言いたいことをまとめて準備しておき，授業の時間に英語で伝えるという課題・活動がありましたが，私個人としては自分にちょうどいいタスクの量だと感じました。

「動機づけ」テーマ単元での言語使用を他のテーマ単元にもそのまま適用することは困難かも知れないが，(i) 担当教員が行う講義・説明の部分では英語の割合を増やす，(ii) 授業までに読む資料も英語で書かれたものをより多く準備する，(iii) 授業中に意見交換を行う場合には，事前に Study Guide で議論点を提示し，事前に英語で意見が述べられる状態にして授業に臨むなどの工夫をすることにより，英語で行う活動や課題を増やしたいと考えている。